

# 濱口梧陵生誕200年 ～梧陵さんと広川町の魅力再発見～ プロジェクト

- 1 事業主体 広川町、広川町教育委員会  
HIROGAWA Re:branding 実行委員会  
広川町日本遺産推進協議会



2020年は濱口梧陵生誕200年

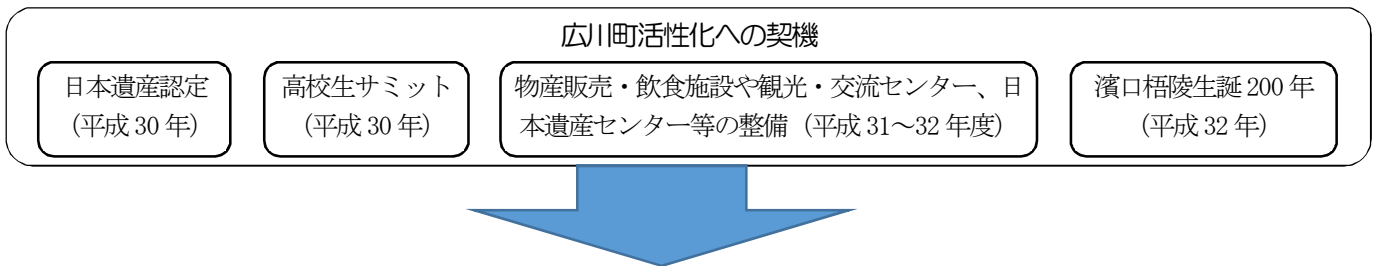


- 2 全体事業費 67,490千円 (うち元気プロ 5,000千円)

## 3 目的

広川町出身の濱口梧陵は、津波から人々を救った稲むらの火の故事だけでなく、私欲を顧みず防災や医療、教育の発展に心血を注ぎ、勝海舟とともに幕末から維新へと続く激動の時代を駆け抜けた近代日本に足跡を残す人物である。平成30年5月の「日本遺産」認定や、平成32年(2020年)の濱口梧陵生誕200年を契機に、広川町が誇る「偉人 濱口梧陵」をPRし、併せて彼が守った歴史的町並みを含む広川町の魅力を国内外に発信し、町の認知度向上と交流人口の増加による活性化につなげる。

## 4 取組の背景、内容



### 1. 「偉人 濱口梧陵」と広川町の魅力伝道 【48,941千円】(うち元気プロ1,464千円)

- ①生誕200年祭イベントや、日本遺産に係るシンポジウムを開催し、知られざる魅力を持った「偉人 濱口梧陵」をブランディングし、彼を育んだ広川町の魅力を広く訴求
- ②マスメディアや、ホームページ、ソーシャルメディアなどを活用したデジタルマーケティングによる「偉人 濱口梧陵」と広川町の認知度向上
- ③インバウンド対応「稲むらの火」英語版ハンドブックの作製や、世界津波博物館との連携強化による海外へ向けた防災意識の発信と防災のまち広川町へのインバウンド誘致
- ④「世界津波の日」2018高校生サミット in 和歌山に参加する高校生との防災学習を通じた交流で、濱口梧陵及び広川町の魅力を若者に発信

### 2. 広川を楽しむ・味わうコンテンツの創造 【18,549千円】(うち元気プロ3,536千円)

- ①地元企業や地域住民のアイデアをもとに、広川町名物となる土産品、防災関連商品や、各店舗でアレンジ可能な名物メニューのレシピなどを開発し、町内物販・飲食施設等で販売を展開
- ②濱口梧陵に関連した稲むらの火の館ミュージアムグッズの開発、販売
- ③梧陵ゆかりの地や歴史的町並みなどを巡る観光周遊ルートを構築するとともに、ガイドと散策する「町並み散策イベント」や、体験メニューの開発など、「広川町に来て、学んで、楽しめる」コンテンツを創造し、来訪者の町内滞在時間延長による町内物販・飲食施設の利用を図る
- ④見どころ施設や観光ルート、開発した名物メニューを食べられる店舗紹介など広川町の魅力と濱口梧陵の魅力とともに伝えるパンフレットの作成や、語り部を養成し誘客を促す
- ⑤日本遺産センターを核とし、空き家となっている古民家群を調査・保全して見学・物販施設として活用することで歴史的風致地区に来訪者を呼び込む

## 5 目標

	平成29年度		平成33年度
稲むらの火の館の入館者数	30,000人	→	40,000人
「梧陵ブランド」を活かした商品	0商品	→	5商品
整備される物販・飲食施設での地域産物販売額	0円	→	35,679千円